

藤原宮第21-2次の調査

(市道165号～小山線拡幅工事に伴う事前調査)

(昭和52年2月～昭和53年1月)

橿原市は昭和51年度・52年度に、国道165号線と飛鳥を結ぶ市道165号～小山線の道路拡幅工事を計画していた。昭和52年2月中旬から、道路側溝部分の掘削が始まったが、この工事は藤原京東三坊坊間小路の推定位置から西約20mのところを南北に長く掘削することになる。したがって、この掘削工事は藤原京の大路・条間小路遺構を何本も従断することが予想された。

調査は拡幅道路の側溝にあたる部分にトレーナーを入れて、主として断面観察によって道路とその側溝を確認するにとどまった。検出した遺構は以下の道路側溝と柱穴・堀川などである。道路側溝は、その位置を国土地理院第6座標系のX座標(南北方向)で示した。Y座標(東西方向)は-16.770付近である。

※ 昭和52年2月——トレーナー長さ 410m

三条大路南側溝 (-166, 294.1) 幅 1m

四条条間小路北側溝 (-166, 422.8) 幅 0.8m

同 南側溝 (-166, 429.3) 幅 1m

五条条間小路北側溝 (-166, 687.6) 幅 0.8m

道路遺構の他に柱穴2と、四条大路推定位置の南に幅8mの東西大溝(仮称一堀川)を検出した。

※ 昭和52年4月——トレーナー長さ 61m

五条大路北側溝 (-166, 809.2) 幅 1m

この他に柱穴1を検出した。

※ 昭和52年11月——トレーナー長さ 21m

道路遺構は検出せず、六条条間小路の北で幅4mの3本の東西大溝を検出した。

※ 昭和53年1月——トレーナー長さ 99m

六条条間小路南側溝 (-166, 959.9) 幅 1m

六条大路北側溝 (- 167, 080.8) 幅 $3\text{ m} \sim 4\text{ m}$

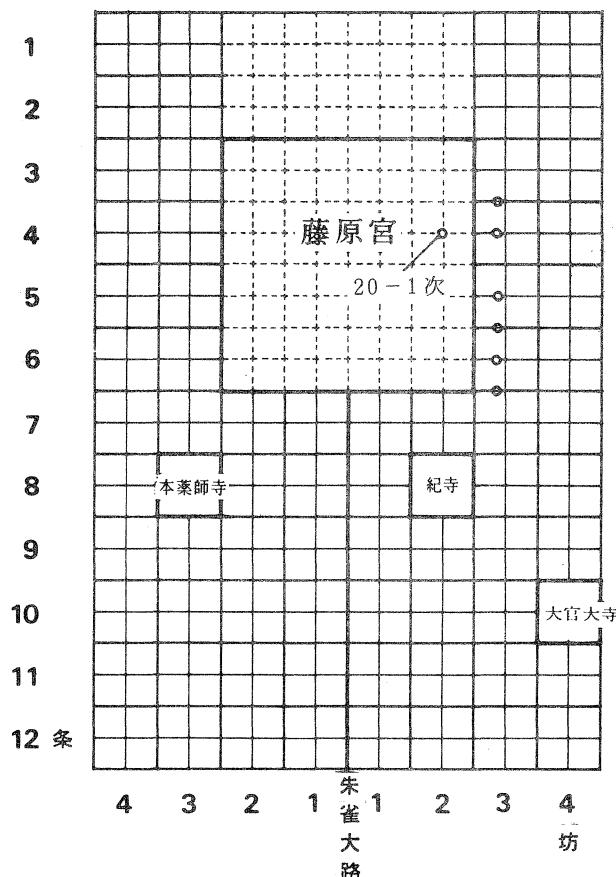
同 南側溝 (- 167, 100.6) 幅 3.5 m

この他に柱穴 3 を検出した。

今回の一連の調査では、三条大路北側溝、四条大路南北側溝、五条条間小路南側溝、五条大路南側溝、六条条間小路北側溝は検出できなかった。

遺物は、前期堀川で出土した木簡・斎櫛が各一点がある他は、各道路測溝から少量の土師器片・須恵器片が出土したのみである。

検出した道路測溝の幅は六条大路の両側溝が $3\text{ m} \sim 4\text{ m}$ と幅広い他は全て 1 m 前後である。この溝幅は宮内で検出した条坊道路関係の測溝や、本薬師寺西



藤原京条坊復原図

南隅で検出した大路側溝幅とも同じである。道路幅は四条条間小路が両側溝心心で道幅 6 m 、六条大路は側溝心々で道幅 21 m が確認できた。四条条間小路幅 6 m は、これまでの知見と一致する。第18次で検出した八条大路・西三坊大路は、いづれも道幅 15 m である。この道幅に比べると今回検出した六条大路は道幅 21 m であり、やや広い。六条大路は道幅が広いばかりでなく、その側溝も大きい。これは六条大路が宮に沿って、その南面を通る大路であるという性格を持っていたからかもしれない。